

NEWS & MENU

第19回 パステル アーツ展 2010

時 2010年11月8日(月)～11月13日(土)
 ◇午前10時から午後7時まで 但し最終日は午後6時まで
 ◇8日午後5時より当会場にてオープニング パーティー

所 『アート サロン毎日』
 ◇千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル1F



美よりも早く走る

ジャン コクトー
 仏・詩人



ピカソやルドンが愛用した最も美しい画材
 仏『セズリエ』などのソフト・パステル

出品	青山滋子	雨宮繁子	江口公子	大川慧人
	大坪一輝	岡 千織	亀谷典子	栗田和子
	黒田昌樹	近藤松江	堺 梨帆	志村和子
	志村曜子	城石多恵子	白田乃々香	高橋久美子
	高橋めぐみ	田口なつみ	近波貞子	常盤玖留実
	中根光理	増沢啓子	松川佐知子	溝端加代子
	箕岡三穂	宮森清子	望月千絵	矢澤益子
	渡邊小夏	渡辺藤一		

構成 パステル アーツ / アトリエドパステル / 花家族 / 粉粉倶楽部 / パステル少年探偵団 /
 YUTANPOPO同盟 / 山高帽子党 ■ 冥王星系 ■ HANA MOON Co.

Adviser
 増田 文雄

Producer
 渡辺 藤一

第18回展『感想ノート』より

OPENING PARTY

<p>初めてみた娘だけ、 もらふと前から あの娘の風景を 知っていた気がします。 T.S.</p>		<p>“タンゴは人生そのものだ” 京谷弘司 バンドネオンLIVE G. アルマーニのキャンドル “スペインの赤” 灯す</p>	
---	--	--	--

春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえてすずしかりけり / 道元

HANA MOON Co.

I Calendar



立冬 11/8頃 冬の気立ち初めていよいよ冷ゆれば /
 小雪 11/23頃 雨も雪となりてくださるがゆへ也

二十四節気 『暦便覧』



仕様 ♥ フォトフレームタイプ ◆ 絵6葉 ♣ 二十四節気&月齢入り ♠ サイズ 15cm×18.5cm



II Post Card



III 額絵 も販売させていただきます

仕様 ♥ 収納サイズ:A4- 210×297mm ♠ フレーム材質:木/白、透明板/PET ◆ 裏板:スタンド&吊り紐付

渡辺藤一 わたなべ とういち

PROFILE

1937年栃木県生まれ。パステル画家。10歳より油絵を始める。1954年毎日新聞社主催「全日本学生油絵コンクール展」特選候補賞受賞。「新制作協会展」入選。銀座樺画廊にて第1回個展開催。55年都立戸山高校在学中に書肆ユリイカに出入りし、社主・伊達得夫の薫陶を受ける。57年武蔵野美術大学油絵科中退。59年詩画集『いつかの砂漠の物語』(書肆ユリイカ)刊行。ユリイカより出された女性詩人の詩集、雑誌の表紙装画で活躍。62年吉行淳之介『星の降る夜の物語』(七曜社)、68年三島由紀夫『三島由紀夫レター教室』(新潮社)の装幀を手がける。82年作品集『リラの饗宴』『ミモザの微笑』でサンリオ美術賞受賞。84年「銀座三越グランドオープン記念個展」。97年第10回個展開催(銀座秀友画廊)。2007年『現代日本の絵画vol.3』(ART BOX)に作品収録。09年第18回「パステル アーツ展」を主宰プロデュースする。10年「大岡信ことば館開館記念特別展その4 大岡信コレクション」出品。

業務部 増田文雄

タンタン パステル アーツ 展へ



名記者六人衆揃い踏み

苛烈な第二次世界大戦の勝利後、再び「祖国フランスの栄光」を追う、対ナチレジスタンス運動のリーダー シャルルドゴール(1890-1970)は、大統領選に臨んだ演説の中で、「私のライバルはタンタンだけだ!!」と叫んだ。

ドゴール大統領誕生にまつわる歴史的エピソードである。

『タンタン』とは、ショコラの国ベルギーの新聞記者エルジェ(1907-1983)が編集に携わった新聞に、自ら描きおろした「コミックス」の新聞記者役の主人公で、愛犬を『スノーウィ』という。

タンタンは、ヨーロッパはもとより世界的な『タンタンクラブ』も存在する人気キャラクターで、日本の『鉄腕アトム』も影響を受けたらしいし、アポロに搭乗した『スヌーピー』も、スノーウィの舎弟分のような気がする。



タンタンシリーズ全24話・関係書等は福音館書店刊

表参道の『ザ タンタンショップ東京店』ではキャラクターグッズも販売

豆記者タンタンはスノーウィを連れ、エルジェの分身のごとく、取材をかね世界中を駆け巡る冒険旅行に出発する。テキサスの『真昼の決闘』者から、クリスティーの名探偵『ポワロ』のようにも変身自由自在。早すぎた宇宙飛行士や、遅すぎる『ターザン』も目ざす。

しかあれど、時折ストーリーの辻つまが合わなくなったり、タイムスリップも起き何だか眠くなってくる。続きは夢の中か、はたまた「この世は夢の如し」か。

そのタンタンのキャラクター像が、マイブーム『BOTTGA VENETA』のキーホルダーにぶらさがり、今日もパステルアーツ展へお出かけルルンだ。山歩きのリュックサックにもお供をしているんだぞ。

さらに我が家の植木鉢の中にまで、冒険旅行の道草ついでに住みついてしまったんだ!! 勝手に。



植木鉢の草葉の陰のタンタンとスノーウィ

積尊は、「私の像を造るな拝むな」と、遺教なされたのに……(『仏遺教経』)

さて本展の、業務仕分けと金庫番役やTシャツ・カレンダー完売屋『HANA MOON』本舗のドンは、將軍家直参旗本の末裔で、悲憤慷慨泣き上戸。「大学銀時計」で、ステテコたたみの名人。清く優しく四角い金庫顔の増田文雄殿と申す。

パステルアーツのファーザー・テレサこと増田君は、軟弱パステルとは無縁な鋼鉄のジャンル、重機ブルドーザーやパワーショベル等の実業を仕切ってきた、「世界のKOMATSU」の元・工学系サラリーマンである。そのせいで丑年でも実に馬力がある。

牛馬力で120歳迄生きると豪語する「ブルドーザーのマスターマン」を、大工の棟梁と崇め持ち上げ、ゴミ分別係の他にも含め友人知人仙人十七士で八ヶ岳高原に、「アルカイダ信州出張所」かと怪しまれた、泣く子も笑う山小屋『夕暮れ村』を、若気の40年ほど前から造り続けている。エコ最前線『十五少年漂流記』が、銀河降る村のマニフェストだ。

彼は、この「未完の大村」が発行する豆新聞『夕暮れタイムス』の重機の名記者であり、重ねて本展の『NEWS&MENU』紙、さらに重ねて「KOMATSU物流・OB会誌」の名記者と、まるで「名記者の漬物」みたいで、味は塩分控えめな、渋ガキの頃からの畏友である。

ボキャブラリーの過不足なんぞ平ちゃらな夕暮れタイムスで、「オレには、歴史に残るような文は書けぬ」と嘆く。ならば、歴史に残らぬような文を書け。花は愛惜に散るのみなり。泣くなフーさん)。増田文雄君とコンビを組む名記者兼発行人は、本展の構成グループ『YUTANPOPO同盟』の一人盟主、近江国彦根城近く在の書伯・池田節子さんである。彼女は自らを幼年性女神と認知する、ユタンポとタンポポをコラボレーションなされたような「幸せ それとも不幸せ」な方でございます。

昨今この二人の名記者は、村を「世界遺産・VINTAGE部門」に登録させんと張り切り、元・郵政省に記念切手まで発行させ、広報宣伝にこれ相勤めている。大いに目出たのだが、オフアはさっぱり無い。



人は寂しくなると夕焼けを見たくなるものだ / サン・テグジュペリ

いざ『世界遺産』登録を目指さん!! ——
「夕暮れ村40周年記念」80円切手

足軽の「ハチ公」のごとく我が主君と奉る、神田ピンボー
チャー(神保町)在で、おいらに画かせた豆々看板を入口に
ひつつけた元『ユリイカ』の主、夭逝した伊達得夫も経済学部の
学生時代に、『京都大学新聞』の名記者として名を馳せた。知
る人ぞ知るである。知らない人は知らない。

例えば、往時文壇随一の流行作家、そして今もなお人気盛
んな太宰治に、シャイな鎌持ち神の雰囲気のある伊達は気に
入れ、好意的な寄稿も私信付きで——「太宰のヤツ返事をく
れやがった」そうである。

なお余談だが、キラ星の如き詩人・文学者達に慕われた「日
本現代詩の名君」伊達藩主は、隻眼に非ず馬系男前なのに、
トマトがきらいであった。故に、おいらにはトマトは食せぬ。馬の
骨の忠節仁義のトマト行でぐわんす。

「野菜をクエークエツ!!」と伊達に向かって激迫なされた、
丸いトマトを召しあがる深く敬愛する詩人「大岡農協の信あに
い」は、お顔もまあくほっぺもまあくタンタン似である。しかも
愛犬家でごさる。

もちろん、言語の達人の彼も、元・読売新聞外報部記者とし
てパリ支局長など歴任の名記者である。仏・現代美術の紹介な
ど日仏文化交流等々にも多大な貢献をされ、ドゴール大統領
の流れをくむ現フランス政府より、ナポレオンが制定した国家最
高の榮譽『レジオンドヌール勲章』を受章された。(第17回展
『NEWS&MENU』紙参照) —— やはりトマト真利なんだあ。
ラマルセイエーズの罍するパリの空の下アヴェニュー シャンゼ
リーゼ(極楽大通り)での、大岡さんのテールコート装はどんな
だったろう。シャンとオスマシ君ができたろうか。



「生まれてすみません」の太宰治は、昨年「生誕
100年祭」を迎えた

4作品が映画化され、松たか子最優秀主演女優
賞の『ヴィヨンの妻』は、『モントリオール国際映画
祭』で、監督賞受賞

以上、「名記者六人衆とワンちゃん一匹揃い踏み」の中で、名
記者中の名記者と申せば、断固迷わず本展の増田君と池田さ
んを推すっきゃない。

すると、パチパチパチとパチテル アーツ展のご入場者の方々
から、賛同称賛の拍手が嵐の様に巻き起こり鳴り響きやまず、
まるでプブゼラのごとき大朗音に、会場主の毎日新聞社から、
お叱りを受けた。

もし、ドゴール大統領が増田君と池田さんの存在に気づいた
なら、「私のライバルは Monsieur Masuda と Madame Ikeda も
だ!!」と、超歴史的な叫びを發し、世界は虹色にチェンジす
るだろう。嗚呼。

「Yes, we can change!」



文・渡辺藤一

静岡県三島市文教町1-9-11

2010年7月~9月

大岡信ことば館開館記念特別展その四 大岡信コレクション

下記の大岡信氏の文は、上記展及び図録において、渡辺藤一の絵とともに展示・掲載

コレクション作家名 その4 な~わ

中西夏之／中村敬子／西脇
順三郎／野坂昭如／野崎一
良／野田哲也／野中ユリ／
萩原朔太郎／浜口陽三／速
水史朗／福島光加／福島秀
子／藤原雄／藤松博／船木
研兒／前田常作／増田感／
益田芳徳／三島喜美代／宮
田亮平／宮脇愛子／三好達
治／宗廣力三／元永定正／
本宮健史／安田侃／山村昌
明／山本容子／柚木沙弥郎
／横尾忠則／与謝野晶子／
吉岡実／渡辺達正／渡辺藤
一

初出 「渡辺藤一 ユリイカ表紙絵展」 紀伊國屋画廊 (主催青土社)
一九七一年七月

藤一君の絵には、熟して崩れかけた珍しい果肉の味わいがあ
る。反俗のユーモアがある。そして、紫斑病にかかった純潔の鬩り
がある。けれども、彼の絵は結局、言葉による説明を拒んでいる
絵、しげしげと眺めるための絵であると思う。

藤一君が表紙絵を描き
ぎつつ新しい領域を拓きつつある。そこに藤一君が表紙絵を描き
好評を博すことになったのは、別に上記のような因縁からでは
ないが、深い縁というものはあるものだと思う。

藤一君は故伊達得夫が書肆ユリイカを元気で経営していたこ
ろ、彼の前に現れた。まだ十代の初々しい少年画家で、伊達得夫
はその純粋な人柄と才能を深く愛した。私の眼に藤一君がいま
なお少年のように映るのも同じ理由による。

大岡 信

紫斑病にかかった純潔の鬩り